

タイトル：異文化間能力向上への試みとその評価ツール

近年、パンデミック下でアジア人に対する差別や暴力が増え、また個人の思想や価値観の違いにより様々な争いが起こるようになり、これまで以上に人々の異文化間能力の向上の必要性が問われている。異文化間能力とは言語的および文化的に多様な背景を持つ人々と適切かつ効果的にコミュニケーションをとる能力と定義されている。これは異なる文化背景を持つ外国人とのコミュニケーションだけではなく、同じ国民同士でも性別や年齢、職業、また、出身地や社会的地位など自分とは違う価値観を持った他者とのコミュニケーションを円滑に行うための能力でもある。さらに、異文化間能力は外国語を学ぶだけでは育たないと言われている。これまでに様々な形で異文化間能力を向上させる活動研究がおこなわれてきたが、アメリカの中西部の日本人と触れ合う機会がほとんどない日本語専攻の学生はウェブコラボレーション活動以外にどのような活動で異文化間能力を向上させることができるのだろうか。その疑問を調査するために本研究では大学で日本語を専攻している学生が小学校で日本語を教えるというコースを開講し、派遣先の小学校の日本語クラスで異文化間能力を向上させる活動をし、その一連の活動を通し、大学生の異文化間能力が向上するかどうかを調査した。異文化間能力を測定する評価ツールは多岐にわたり、また測定する指標も様々ではあるが、その能力を測定するために大学生には学期始めと学期末に3つの評価アンケートを受けてもらった。発表ではコースの具体的な活動を紹介し、各評価ツールの結果を述べ、日本語専攻の学生の内省を踏まえながらディスカッションをし、今後の可能性を述べたい